



●2023年のギャラリートーク振り返り

先週、「(試験的)色彩教材ギャラリートークのコンセプト」について書きました。今回は実際の内容について、書きたいと思います。

色彩教材の内容は、「カラーユニバーサルデザイン」「回転混色」「プログラミングによるパターンデザイン生成」「色名関連資料」など多岐に亘りました。制作にあたっては、平面デザイン、クラフト、コンピュータプログラム、電気工作などこちらも多岐に亘っており、色彩教材の制作アプローチの多彩さも感じることができました。

以上を鑑みると、色彩教材は従来からの紙メディアを中心としたアナログメディアはもちろんのこと、デジタルメディアも徐々に現れており、我々もデジタルに関する知識やスキルをアップデートすべきと感じられました。

ちなみに、このギャラリートークは「オンライン開催」としましたが、実作品を楽しむことを考えると、オンライン配信しない方が逆に良いとも感じられました。

※昨年度の詳細は、下記リンクからご覧いただけます。

<https://color-science.jp/society/240316event-3/> (吉澤陽介 主査より：019)

●ギャラリートークと研究会共有教材

ギャラリートークの構想が進められています。それを機会に提案を考えました。

皆さんが過去に制作された色彩教材で、利用を研究会員に解放しても良いと思われる教材を各自提供していただき、研究会で整えた上で保存し、必要とされる色彩教材研究会員に提供するという活動をしたら、役に立つのではないのでしょうか。返却は無用です。

とりあえず、教材の形態は「パワーポイント」に限定します。表紙は統一した表現にし、後日の内容変更は自由とします。貸し出しは、全研究会幹事が保有して個々に対応していただきます。手間を簡略化するためです。

先日、私のMacを自宅の50インチTVにつなぎ、大型の画像が見えるように致しました。私の狭い家でも5人位は、見ることができますので、個人的にギャラリートークができ、研究会共有型に小変更することが出来そうだと思います。提供できる教材を持ち寄ったり、私のデータから選んで共有型教材に仕立てることができそうです。

主査の手で「色彩教材研究会共有教材」と「趣旨・配慮事項」が入った第一ページの作成をお願いします。お暇の方は足立区の拙宅においでください。お待ちしております。(永田泰弘)

●万葉集のなかの色名-22

椽(つるばみ)の 一重の衣 うらもなく
あるらむ児ゆえ 恋ひ渡るかも
(巻12-2968)

桃花褐の 浅らの衣 浅らかに
思ひて妹に 逢わむものかも
(巻12-2970)

赤帛(あかきぬ)の 純裏の衣 長く欲り
わが思ふ君が 見える頃かも
(巻12-2972)

紫の 帯の結びも 解きも見ず
もとなや妹に 恋渡りなむ
(巻12-2974)

忘れ草 わが紐に着く 時と無く
思ひ渡れば 生けりとも無し
(巻12-3060)

「つるばみ」はくぬぎのこと。その実のどんぐりで、薄茶色から、焦茶色、黒色まで染めることができ、奈良時代は家人や奴隷の衣服の色。時代が降ると一般化していった。

桃花褐(つきそめ)は朱鷺色。浅いピンク。「純裏の衣」は表裏が同じ布の豪華な着物。

「紫の帯」は身分の高い人の帯。

「もとなや」は「ぼんやり」の意。

忘れ草は橙色の花が咲く萱草のこと。

*講談社文庫・中西進・万葉集から (永田泰弘)